

令和 7 年度

運営に関する計画

【 4 月 全体会 】

大阪市立開平小学校

令和7年度 大阪市立開平小学校の基本方針について

【開校以来の校訓】

- 『たくましく』 健康で逞しい心身を持ち何事にも意欲的に取り組む子
『うつくしく』 内面的な美しさを大切にする心情を育てると共に国際社会の一員として平和を希求する子
『あたらしく』 常に進取の気性と自ら進んで学ぼうとする態度を持つ創造性豊かな子
『ほこらしく』 自らのよさを自覚しそれを伸ばそうとすると共に友達のよさを認め互いに敬愛し協力し合う子・地域をこよなく愛し誇りを持つ子

【校名の由来】

～船場に残る唯一の学校として、社会に有意な人材の育成を～

開平小学校は、明治以来社会に有意な人材を多く輩出した愛日小学校（明治5年創立）と集英小学校（明治6年創立）が統合され誕生した学校である。私たち教職員は、脈々と受け継がれた船場にあった両校の伝統を受け継ぎ、人々が校名にこめた願い「**為萬世開太平（萬世の為に太平の基を開く）**」（朱子学・近思録より）を受け、世界平和を希求しその実現に貢献できる人間の育成をめざしている。

【学校教育目標】

『自ら学びに向かい、未来を切り拓く子どもを育成する』

【学校経営の重点】

- ① 愛日、集英の伝統を堅持しつつ、児童一人一人を大切に『開平らしい教育』を推進する。
- ② 学びに向かう姿勢をつくるとともに、組織的な学力向上に向けた取り組みを推進する。
- ③ 互いに認め合い、支えあう学級集団づくりに努める。
- ④ 自分の考えを持ち、その考えを伝える力を育てるとともに、自ら決定できる力の育成を推進する。

【具体的方策】

- ① 学校の歴史や伝統および船場の地域について、様々な資源を活用しながら主体的に学ぶ意欲を育てる。
- ② 基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、専科指導やTT指導、チームとしての学年運営など、様々な指導体制を活用し、児童の学ぶ意欲を高める。
- ③ これまでの異学年交流を継続し、多様性を認め合う集団づくりを進める。
- ④ なかよし学級の取組を核に、「共に学び共に育ち共に生きる」特別支援教育実践の充実を図る。
- ⑤ どの授業においても、話し合い活動を充実させ、自分の考えを深めたり、広げたりできる子どもの育成を推進する。
- ⑥ 第2運動場（南天満公園）有効活用を図るとともに、健やかな心身の育成を進める。

開平教育の基本方針

【 知 学力の向上 】

《個に応じた指導》

- 国語、算数において個に応じた指導を徹底する。（研究教科は定めないが、話し合い活動の充実を図る）

子ども一人一人が「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を感じる学習指導の充実を図り、自ら進んでひたむきに学習に取り組む開平の子どもを育成する。

《開平らしい教育の推進》

- 「自分が好き」「友だちが好き」「学校が好き」「地域（船場）が好き」…船場の文化や歴史、開平小学校設立の願いなどの学びを通して『開平らしい教育』を推進する。
- 1年生から6年生まで一貫した読本「わが町船場」を教材とした実践を進める。
- 地域へ出かける学習や外部講師から学ぶ機会を生かし個々の学ぶ意欲を高める。

《授業力の向上》

- 教員一人一人が年1回以上の研究授業に取り組み、教師力・指導力の向上に努める。
- 教育振興基本計画の趣旨を踏まえ、授業改善、指導力向上のための研修に取り組む。
- 学校教育ICT活用事業に沿った実践を各学級で計画的に進めるとともに、地域財団支援事業を活用し、全学年で新たなプログラミング教育を進める。
- TTによる指導、専科指導、教科およびチーム担任制等により、全教職員が授業力向上のため研究・研修等を進め、授業内容の工夫を図る。

《基礎基本の定着》

- 「読み・書き・話す・計算」などの基礎的・基本的な知識と技能を確実に定着させる。
 - ・ 学年の発達段階に応じて徹底して習得することができるよう、学習環境の整備・教材開発を進める。
 - ・ 日本語の指導が必要な児童については、他校の日本語指導教室やの日本語指導のサポーターを活用しながら、学習に必要な日本語を言語として獲得できるようにする。

《特別支援教育の推進》

- 「共に学び共に育ち共に生きる」教育の理念に基づき、障がいのある児童を核にした特別支援教育を推進する。
 - ・ 「個別の指導計画」をもとに一人一人の教育課題を明確にし、保護者や関係機関との綿密な連携のもと、効果的な指導や適切な支援を進める。
 - ・ 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をクラス担任および特別支援学級担任で共有し、児童の成長・発達をともにめざす取り組みを進める。
 - ・ 学習内容の工夫や多様な指導形態について検討を進め、あらゆる教育活動を通して学校全体で特別支援教育を推進する。（特別支援教育に関する教職員研修の実施及び低学年からのインクルーシブ教育の授業実践を進める）

《伝統の英語教育》

- 本校カリキュラムに基づいた全学年での英語活動や市の実施するモジュール学習を各学年で推進し、児童一人一人が英語に親しみコミュニケーションしようとする意欲や態度を育てる。

《言語力の向上》

- 自ら考え豊かに表現する児童の育成をめざし、調べ活動と読書活動の充実を図る。各授業において、自分の考えを深めたり、広げたりできるよう、主体的な話し合い活動を実践する。
 - ・ 開援隊図書班（本校ボランティア）との連携をもとに学校図書館の積極的活用を推進する。

《伝統の音楽教育》

- 全校音楽朝会での心をつなげて取り組む全校合唱等を通して、全学年で一貫した音楽教育の充実を図る。（音楽朝会等で保護者に披露する機会を設ける。）

【 徳 道徳心・社会性の育成 】

《人権教育の充実》《自他の尊重》

- 各学年の課題に応じた「人権教育指導計画」を策定し実践を進める。
- ・ ともに学ぶ仲間の心を傷つける言葉や差別発言をしない・させない・許さない集団を育てる。
- ・ 子ども一人一人を大切にしたい人権教育を進めるとともに教職員自らも人権感覚の向上をめざす。
- 子ども一人一人が、互いの違いを認め合い支え合う仲間づくりをすすめる。
- ・ 「生活指導連絡会」「特別支援教育連絡会」を中心に、きめ細かい実態把握に努め、児童を取り巻く状況を教職員全体で情報共有し、課題の早期発見と適切な指導と対応に努める。

《伝統の継承》

- 言語環境を整え、礼儀正しくきちんと挨拶やていねいな言葉遣いのできる子どもを育てる。
- ・ オアシスの励行…「㊦おはようございます」（特に正門での朝の挨拶の励行）

「㊦ありがとうございます」「㊧失礼します」「㊨すみません」等、

日常において礼儀正しく挨拶ができる子どもを育てる。

- ・ 目上の人に対して、発達段階に応じて適切に敬語を遣うことができる児童を育てる。

《規範意識の醸成・道徳教育の充実》

- 社会生活におけるルールやマナーなど、守るべきことをしっかりと守る児童を育成する。
- ・ 校内安全・挨拶・服装を整えることの徹底を図る。また、登下校に関する指導を徹底し、安全に関する規範意識の向上をめざす。
- ・ 考え議論する「特別の教科 道徳」へ向け授業改善を図る。

《集団育成》

- 「なかよし班活動」を通して、共に学び互いに支え合うことのできる児童相互の絆づくりに努める。

《「しん」の強い子》

- 「自分ができることをする」「自分の考えを持ち、伝える力をつける」「自分で選択し、決定する力をつける」といった目標を通じて自分の行動に責任を持つ子どもの育成をめざす。
- 子ども自身が学んだことや考えたことを自ら発信したり、目標に向かって頑張ったことを認めあったりするなど、個々の自己肯定感を高める取り組みを推進する。

《情報モラルの育成》

- インターネットやスマートフォン、携帯電話の利用について、メール等で重大事案が発生している状況を踏まえ、各学年において発達段階に応じて指導をすすめる。
- ・ P T A等様々な機会を通じて、保護者に向けた啓発を行い協力して進める。

《自立心・自律性》

- 「大阪船場ロータリーとの連携」を継続し、5年生においてキャリア訪問を実施する。

《伝統の菜園活動・地域連携》

- ルーフガーデンを中心に様々な草花や野菜を栽培し、仲間と共に活動する楽しさや協力しあう喜びを通して豊かな心を育てる。（開援隊栽培班との連携）

【愛珠幼稚園との連携】

- 愛珠幼稚園との幼小交流活動を通して、年少の子どもを助けたり大切にしたりして人をいたわるやさしい心を育てる。（5年生のプール交流、1年生の給食参観など継続して行う）

【 体 健康・体力の増進 】

《体力の向上・地域連携》

- 第2運動場（南天満公園）を中心に体力・運動能力の向上を図る取り組みを進める。
- 区事業を活用しながら、児童の運動能力の向上及び教職員の体育実技研修を進める。
- 安全面に配慮し体力運動能力を向上させる取組を工夫する。
- 生涯スポーツと体力向上をめざし、すべての子どもたちが運動・スポーツの楽しさや喜びを味わえるような体育指導の工夫・改善を図る。
- 全児童が一堂に会するスポーツフェスティバルについて、あり方や実施方法の検討を進め、共通理解のもと実施する。

《健康教育の推進》

- 望ましい生活習慣の形成に向けて、実践力を高める指導の充実を図るとともに、各家庭と連携して具体的な実践をすすめる。
（すこやか週間、すこやか会議の取り組みを通して児童の心身の健全な発達・成長をめざす）
- ・ 健康的な生活を送るため、食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活を続けるための指導を推進する。

《食に関する指導の充実》

- 学校給食を中心に食の大切さや楽しさを知り、心身の成長や健康の保持増進のための食に関する指導を推進する。

現状と課題について

- ※ 本年度は430人を超える児童数となり、さらに途中転入も含め増加傾向が続くもの考える。また、数年後には児童数が500人を超える推計が示されており、新校舎を増築したものの新たな収容対策が必要となる時期が迫っている。
- ※ 収容対策として、南高校もとグラウンドを軸として新校設立を検討しているが、学校選択制や指定校変更制度の在り方も継続して市教委、区役所と協議を行う必要がある。
- ※ 現在、体育の授業を第2運動場へ移動して行っているが、児童が安全で安心して学校生活を送ることができ、また体を動かすことや運動することが好きであるという子どもの育成をめざすためには、環境面の整備を進めていくことが喫緊の課題である。
- ※ 年間を通じて、渡日の児童転入もあり、日本語指導や母語支援などを行う必要がある。多様なニーズや教職員の働き方改革を進めるための指導体制の工夫などが求められている。
- ※ 子ども一人一人の抱える背景も様々であり仲間づくりにおいては様々な問題がある。これまで以上に内面にしっかり迫る教育活動が求められている。子どもに寄り添い、一人一人が抱える問題や課題を見逃さず隙間のない教育を進めていきたい。
- ※ これまで大切にしてきた開平小学校の教育の良さを生かしながら「今、できることを今の教職員で実践していく」ことを基本とし、地域、家庭、学校の3者が連携して今後の教育を進めていく。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査結果については、平成19年度実施より毎年両教科ともに継続してほぼ全国平均を上回る状況である。無回答率については、全国平均以下で推移してきた。
- 毎年実施されている大阪市小学校学力経年調査結果については、概ね全学年全教科で大阪市平均を上回っている。学習意欲が高く何事も前向きに取り組む児童が多いが、一方習熟に課題のある児童については、基礎基本の徹底を重点に取り組む必要がある。
- 全国体力・運動能力運動習慣調査については、令和6年度は女子は全国平均を上回る項目が多かったが、男子はほとんどの項目で下回り、大阪一狭い運動場という環境に対応した体力づくりの取り組みが必要である。
- 開校以来100人前後の児童数で推移していた本校であるが、本年度は400人を超える規模となり、さらに増加傾向が続くものとする。子ども一人一人の抱える背景も様々であり仲間づくりにおいては様々な問題が生じている。これまで以上に内面にしっかり迫る教育活動が求められている。子どもに寄り添い、一人一人が抱える問題や課題を見逃さず隙間のない教育を進めていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上とする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 毎年度、小学校学力経年調査において、全国平均以上を継続する。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の調査において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の調査において、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上とする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

学校の年度目標

- 令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

学校の年度目標

- 令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

学校の年度目標

- 令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。

(様式 2)

大阪市立開平小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【安心・安全な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90%以上とする。 ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上とする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 学校の年度目標 ○令和 7 年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 「学校のきまり」について、職員全体で共通理解を図り、児童の規範意識を高めるようにする。	
指標 ・連絡会を月に 1 回、部会を適宜実施する。また、必要に応じて朝会時に連絡し児童理解に努める。 ・安全な生活を心がけることができるよう各学年に応じた取り組みを 1 回以上進める。(校舎内での安全歩行)	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 「人との関わり」を扱った資料について重点をおいて指導し、友だちと仲よく助け合ったり、より良い学級や学校をつくったりしようとする態度を養う。	
指標 ・児童アンケート「誰にでも優しくした」に対して、肯定的回答をする児童の割合 90%以上を維持する。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育の推進のために、環境整備を進めるとともに、児童の相互理解につながる活動や取り組みを実践する。	
指標 ・児童の相互理解や共に学びあえる環境を整えるために、巡回相談や特別支援教育の研修を年間 6 回実施する。 ・各学年の発達段階に合わせて、特別支援教育の視点に立った障がいの理解につながる授業を実施する。	

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

なかよし班活動のなかよし班清掃、ワクワクフェスティバルや全校リエンディング、ありがとう集会において、異学年集団の関わりを大切にした活動になるように工夫する。

指標

- ・縦割り班で活動する中で、自分自身の役割を意識することができる機会を設定する。
- ・児童アンケートにおける「なかよし班活動などで仲良くみんなと協力した」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

大阪市立開平小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 学校の年度目標 ○令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 船場に学ぶ児童が主体的・対話的で深い学びができるように、各教科・領域、学年の横断的カリキュラムのもと、児童が協働的に学ぶ場を設定した授業を設定する。	
指標 ・大阪市学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 専科指導を行うことにより授業の質を向上させ、児童の学習に対する興味や関心、意欲が高まるようにする。TTや個別指導を活用し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。	
指標 ・専科における指導やTT体制での指導、個別指導を充実させ、算数と理科の小学校学力経年調査標準化得点を前年度程度維持する。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 開校以来全学年で行っている週1回の英語活動と、大阪市が推進する英語短時間学習を計画的に実施し、英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	
指標 ・週2回のドリムと年間時数に沿った英語・外国語活動を計画的に実施し、学校アンケートにおいて「進んで英語を話すことができた」「どちらかといえばできた」と答える児童の割合85%以上を維持する。 ・小学校学力経年調査において「外国語（英語）の勉強は好き」「どちらかといえば好き」と答える児童の割合を85%以上にする。	

取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内研修、各教科・領域の指導法、特別支援教育、本校のこれまでの取り組みなどについて、年間を見通した研修計画を立案・推進し、授業改善のための具体的な取り組みを進め、教師力の向上を図る。	
指標 ・授業を行う全教員が研究を深めるため、一人1授業を行う。 ・「教科・領域の指導法」「特別支援教育」「I C T」を柱とした教員の研修会を実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 運動好きの児童を育てるために、休み時間の運動遊びの充実を図る。また、第2運動場の計画的な運用や体力向上を目指した体育学習及び体育的行事の工夫を行う。	
指標 ・児童アンケートにおいて「運動する（体を動かす）ことが好き」と答える児童の割合 85%以上を維持する。	
取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 すこやか週間を毎月設定し、「げんきアップチェックカード」を活用したり、分析したりすることで、全児童が健康的な生活習慣を身に付けることができるようにする。	
指標 ・「げんきアップチェックカード」の全項目について、昨年度の水準を維持できるようにする。	

大阪市立開平小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。 学校の年度目標 ○令和7年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーションの推進）】 市が進める学校教育ICT活用事業に沿った実践を計画的に進める。 各学年の実態に応じたプログラミング学習の実践を進める。	
指標 ・「1人1台タブレットパソコンを使うことで、学習を深めることができた」という児童アンケートに対して肯定的回答90%以上を維持する。	
取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】 開援隊の図書班や学校図書館司書と連携し、読書好きな子どもたちを育てるための実践を計画的に進める。	
指標 ・学校生活を振り返る児童用アンケートの中の「進んで読書ができた」という項目において、肯定的回答を85%以上にする。 ・学校図書館教育全体計画および、学校図書館運営計画に沿って、委員会活動を主とした読書推進活動を学期に1回以上取り組む。	
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の働き方改革を推進するため、ゆとりの日を週1回設定するとともに、ゆとりの日、それ以外の日の退勤時刻を掲示し、教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の時間外勤務が45時間を超えないようにする）を満たす教職員の割合を前年度以上にする。	
指標 ・教職員の平均時間外労働時間が校種別平均時間を下回るようにする。 ・安全衛生委員会を定期的に行い、産業医からのアドバイスをもとに働き方改革を意識する教職員を増やす。	